

北九州テクノサポート通信

Kitakyushu Techno-Support

北部九州・山口地域の産業発展に貢献する



NPO法人 北九州テクノサポート

〒804-0003北九州市戸畑区中原新町2番1号

TEL: 093-873-1453 FAX: 093-873-1453

E-Mail: info@npo-kts.org URL: http://www.npo-kts.org/

Vol.38

2022年冬号

新年のご挨拶

NPO法人 北九州テクノサポート 会長 吉田 剛



初春のお慶びを申し上げます。

皆様、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

一昨年より新型コロナウイルスに世界中が翻弄されていますが、ワクチン接種も進み国内では感染者も減少して小康状態となっています。早期にワクチン接種を進め、感染者が減った後に、再拡大するケースが欧州を中心に見られまだまだ油断できない情勢と思われます。経済は自粛で厳しい事態に追い込まれ、その影響は今も継続しております。

東京オリンピックも無観客で行われる異例の時代になっています。社会全体が沈滞したムードになっておりますが、本年はこれらの制約が取り外される明るい時代になるように願っております。

当法人では一昨年から密を避けるため会合も遠隔Web会議を継続しています。ニューノーマルと言われる時代となり、日常的に情報技術を活用して様々な制約にも柔軟に対応しながら今までは出来なかったリモートコミュニケーションができ「活動の幅が広がる」明るい兆しも見えたと思います。本年はこれらのテクノロジーを有効に活用し、これまで以上に活発な仕事の展開が出来ればと思います。

さて、超高齢化社会が当たり前になっている今日、シニア中心の当法人は様々な社会課題に取り組んでいます。生涯現役を志し、実務経験に裏打ちされた多様な知識・経験を活かして、社会とりわけ技術の課題に取り組んでいます。本年もこれらアクティブシニアが仲間と連携をしながら地元の現場を回り、関係機関と協力しながら勘所を押さえた課題解決に取り組んで行く所存です。

本年は以下のような重点テーマを掲げ地域の課題解決に取り組みます。

- ① 内外の連携を一層強化し、知識・経験を活かした新規支援の拡大
- ② 新技術への対応力や会員の課題解決能力の強化
- ③ アクティブシニアを呼び込み組織としての活性化を進める

当法人の活動は地域の関係機関・企業様のご支援の上に成り立っています。当法人をご活用いただき、共に成長する地域の技術支援集団として、本年もご愛顧いただければ幸いです。末筆ながら、本年が皆様にとりまして最良の年となりますよう祈念しご挨拶とさせていただきます。

Topics 1. 「SDGsをベースとした社会的課題解決型新規ビジネスづくり」

株式会社エコイマジン 代表取締役社長 今仁 豪造

最近ではSDGsについてテレビでも頻繁に扱われる様になり、SDGsの認知度は日に日に高まってきています。そのせいもあって、会社の経営者からはSDGsをどのように自社の活動に取り入れたら良いのかという質問を多く頂く様になりました。その質問の背景には、会社をなんとか存続させたいという思いがあるからではないかと思われます。

現状の仕事の内容で、10年、20年続く会社であれば問題は無いかもしれませんが、その様な会社はそれほど多くなく、外部環境が加速度的に変化する中で、生き残れるかどうか大きな課題となっている会社の方が多く言われています。つまり、会社自体がSDGsのSのSustainable(持続可能)かどうか大きな課題であるということになります。という背景があって、SDGsを自社の活動に取り入れたいと思われるのですが、冒頭に述べた様に、現状ではどのように取り入れたら良いのか分からない会社が大半ではないでしょうか。

ではどうすれば良いのでしょうか？

その答えは、抽象的に言いますと、外からではなく内からはじめるとい事です。どういうことかと言いますと、外つまりSDGsという「国連が採択したゴール起点」ではなく、内つまり「会社のミッション起点」で考えるという事です。

ではどうして「会社のミッション起点」から始める必要があるのでしょうか？それは「国連が採択したゴール起点」で始めると、そこには思いがあまり入らず、結果として内容の薄い表面的な活動になってしまう危険性があるからです。自社が現在実施している活動を無理やりSDGsの17のゴールに当てはめているだけの状態です。これだけでは、収益に繋がる事はほとんどなく、持続可能な会社になることも難しいと言えます。

ですから、思いの込められた会社のミッションを起点として始める事が重要になって来るのです。そこに会社が存在している意味があるからです。

では、会社のミッションを決めた後、どうすれば良いのでしょうか？

それは、そのミッションに関連した、経営者ご自身が、これはどうしても解決したいと思う身近な「社会的な課題」を見つける事です。

次に、その課題解決の方法を考えます。

その時に活用すると良いのは、あの太谷翔平選手も使っている「マンドラチャート」です。作り方は簡単です。真ん中に、解決したい課題を書きます。そしてその周りにアイデアを出して行くだけです。

次に、そのアイデアの中から、新規事業の案を考えます。そして、その案に関連しそうなキーワードを、SDGsの17のゴールからではなく、169のターゲットの中から見つけます。ターゲットの全文に当てはまるものはないとは思いますが、キーワードレベルで十分だと私は思います。これで、経営者の思いとSDGsとがしっかりと繋がるのです。

その次に、その新規事業の案に基づいた「事業計画書」を作成し、PDCAを回して行きます。重要な点は、マーケティングを行う際にはSDGsを全面に出す事で、この新規ビジネスに共感を得る方を増やして行くことです。

持続可能な会社になるためにSDGsをベースにした新規事業を始めませんか？



SDGsをベースにした新規ビジネス構築の為の7ステップ

STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	STEP5	STEP6	STEP7
ミッションを決定する	ミッションを起点に社会課題を見つける	マンドラチャートを使って社会課題解決の為にアイデア出しを行う	マンドラチャートの案からビジネス案を考える	ビジネス案とSDGsのターゲットとを紐付ける	SDGsと紐付けされたビジネス案に基づいて事業計画書を作成する	PDCAを回す

◎ミッション起点で始める

新年の挨拶



2022年(令和4年) 新年の挨拶 北九州市長 北橋 健治

「SDGsを原動力に日本一住みよいまちへ」

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、本市では、医療従事者を始めとした皆様方のご協力により、対象者の8割を超える方がワクチンの2回接種を完了することができました。その一方で、感染防止対策を徹底しながら、「東アジア文化都市北九州2020・21」や史上初の同時開催となる「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」などのビッグイベントも開催しました。

今年も、コロナによる社会経済状況の変化をしっかりとらえ、様々な取組を進めてまいります。

年明けからは、子ども医療費支給制度の助成対象を「高校3年生まで」に拡充するなど、妊娠期から産前・産後、子育て期にわたる

切れ目のない支援の充実により、「子育て日本一を実感できるまち」の実現に努めます。

また、テレワークなど「新しい働き方」の広まりを地方創生の追い風ととらえ、昨年新たに発表した都市ブランド「New U」を展開しながら、移住促進や関係人口の創出、企業誘致などの取組を強めます。

さらに、洋上風力発電関連産業の総合拠点化や北九州空港を活かした物流拠点の形成など、本市の将来を牽引する戦略的なプロジェクトも推進します。

世界的に脱炭素の流れが強まる中、いち早くグリーン成長に取り組んできた経験を活かし、ゼロカーボン達成に向けた取組やDXの推進など、「SDGsのトップランナー」を目指すことで、「日本一住みよいまち」の実現に繋げてまいります。

新春放談 北部九州・山口の新年と語る

(順不同)

■北九州商工会議所

会頭 津田 純嗣



あけましておめでとうございます。

本年が北九州テクノサポートの皆様にとりまして良き年となりますよう、心から願っています。皆様は北九州の産業発展に貢献されていることに敬意を表しますとともに、本年の一層のご発展・ご活躍を祈念しています。

さて、北九州商工会議所は昨年、コロナ禍などで苦境に立たされた中小企業の方たちに寄り添いながら、経営相談などの対応をいたしました。また、1万人にワクチンの職域接種も行い、地域経済回復のお手伝いをさせていただきました。今年は、何としても経済を本格的に回復させなければならないと考えています。

ダメージを受けた業界に対しては、引き続き国などの支援が必要です。同時に、北九州でも人の動きが活発になるような、にぎわいの創出が必要になります。経済の回復を考える時、長期的な視点による取り組みも大切になってきます。その柱となるのがSDGsとDXでしょう。

SDGsの先に見えてくるのは「暮らしやすさ」という特長を生かした、北九州の将来像です。職と住の近接、恵まれた子育て環境など、このまちにはいくつもの優れた面があります。これらをうまくアピールしながら、まちの魅力を高めていく。シビックプライドを育み、きちんと情報も発信していく。こうしたことが今年はひととき大事になると思います。

このまちには未来が広がっています。北九州商工会議所は今年も、北九州テクノサポートの皆様と力を合わせながら、ものづくりのまち北九州の発展に貢献したいと考えています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■株式会社安川電機 代表取締役社長 小笠原 浩



謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年は感染予防を図りながら開催されました東京オリンピック・パラリンピック、そして、弊社も協賛し大きなPRが出来た北九州での世界体操がございました。約2年となるコロナ禍での活動は、私たちに様々な気付きを与え、感染予防を第一としたニューノーマルな経済活動が営まれています。

弊社では、ソリューションコンセプト「i³-Mechatronics」一個別のものを統合し(integrated)、それらを分析して知恵に変え(intelligent)、そして、一気に革新する(innovative)一を浸透させるように活動しているところでございます。

このコンセプトを踏まえ、昨年9月に安川テクノロジーセンタ(YTC)が本格稼働いたしました。このYTCでは、製品の開発から生産まで一貫した取組を同じ場所で行うことにより、要素技術の製品への取込みや開発から試作、生産までの大幅な時間短縮を目指しています。また、製品を開発した設計者が自ら試作の作業に参加することにより、ものづくりに精通した開発力の向上も狙っています。そして、オープンイノベーションについては、お客さまとの協業のみならず、大学機関等との連携が加速し、順調な滑り出しと言えます。本格稼働後には多くのお客さまや関係者の方々を案内し、安川テクノロジーセンタ設立の意義に対し非常に高い評価を受けております。今年は活動をさらに加速し、お客さまに勝っていただく製品をタイムリーに開発してまいりたいと思います。

最後になりましたが、北九州テクノサポート会員の皆様にとりまして、2022年が飛躍の年になることを心より祈念いたします。

謹賀新年



大光炉材は、ユーザーニーズへの迅速・確実なレスポンスをモットーに、独自の技術開発力を武器にダイナミックな展開をしています。

大光炉材株式会社

本社：〒804-0054 北九州市戸畑区牧山新町1-1
TEL: 093-871-1631(代) FAX: 093-883-2151
<https://www.taiko-ref.com/>

経営理念【社是】

私たちは、国家社会を支える重要な仕事をもつことを誇りとし、きびしい自己反省とたゆまぬ創造開発によって会社の発展と人間幸福の実現に努力します。



総合福祉機器メーカーのリーディングカンパニーとして、安心と快適を届ける技術で、お客様の生きる喜びを創造します。



義肢/装具/車いす/福祉用具/リハビリ機器

株式会社 有菌製作所
代表取締役 有菌 央

〒805-8538 北九州市八幡東区東田1-7-5
TEL 093-661-1010 FAX 093-661-1670
URL <http://www.arizono.co.jp>

新春随想



2022年(令和4年) 新春随想 公益財団法人北九州産業学術推進機構 理事長 松永 守央

新年あけまして、おめでとうございます。

皆様には、日頃から公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)の事業に対し、ご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、一昨年来、新型コロナウイルス感染症のまん延という想定外の事態が発生し、みなさまの企業活動におかれましては縮小、停滞を余儀なくされたものもあったのではないかと推察いたします。

一方でここへきて、新規陽性者数も落ち着きを見せ、平時の活動に戻るための体制が徐々に整いつつあるのではないのでしょうか。

この二年間は大変厳しい状況下ではありましたが、この危機を克服するために、多くの企業で、AIやDX、ロボットなどを駆使した生産性の向上や、事業を再構築して新たな業態にチャレンジするなど、これまでにない多くの取り組みがみられました。

いま私たちは、今回の環境下で学んだこと、取り組んできたことを未来へどうつないでいくのかという大きな課題を背負い、その解決策を模索しながら、スピード感をもって、社会に対峙してゆかなければなりません。

これまで、私どもFAISは20年の長きにわたって、北九州学術研究都市を中心に地域に集積する大学・研究機関と産業界の橋渡し役として、また中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動してきました。本年は、ポストコロナの時代を見据え、デジタルやロボット等を活用した生産性向上に資する機能を一層充実させるとともに、これまで以上に、企業の皆様の経営基盤の強化や新たな産業の創出などに繋がる支援を、全力で続けてまいります。

関係機関や地元企業の皆様の一層のお力添えをお願いいたします。

最後になりますが、皆様にとりまして、本年がよき年となりますことを心からお祈り申し上げます。

新春放談 北部九州・山口の新年と語る

(順不同)

■(公財)北九州活性化協議会 会長 宇佐見 昇



新年あけましておめでとうございます。

北九州テクノサポートの皆様には、平素より当協議会の運営にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この1年も、新型コロナウイルスの影響で、なかなかスムーズな事業運営が行えず、いろいろな面でご苦労があったかと思います。しかしながら、当協議会と連携しテクノサポートのコーディネーターの皆様のお力をいただいている、「北九州地域産業人材育成フォーラム」の事業に於きましては、大学低学年からのインターンシップへの取組みを推進することができました。

また、世の中がリモートなどITを活用した実施傾向が強まる中でも対面でのインターンシップを基本とし、数多くの学生の貴重な経験の場の提供にご協力いただきました。これも地域の企業様が産業人材育成の重要性を認識いただけているものと感じております。改めて関係者の皆様方には感謝申し上げます。

また、経験をした学生にとっては、産業人材として大きく羽ばたくための揚力を得たことも強く感じました。課題に取り組むタイプのインターンシップは、まだ誰も知らない答えを自らが見つける、特に理系人材としての探求心を覚醒させている学生の姿を見ることができます。そのような人材をこの北九州に残し、地域の企業様で活躍してもらわなければなりません。

北九州テクノサポートの皆様の役割はますます大きくなっていくと考えておりますので、当協議会との連携をはじめとして、地域活性化の推進に一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、北九州テクノサポート様の益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

■(公財)北九州観光コンベンション協会専務理事 近藤 晃



新年あけましておめでとうございます。

NPO法人北九州テクノサポートの皆様には、平素より当協会の事業運営に格別のご指導、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、当協会は、昨今複雑化・複合化する社会課題・企業課題にリアル＋オンラインで対応するため、展示会「西日本製造技術イノベーション」、「中小企業テクノフェアin九州」、「エコテクノ」を産業展「課題解決EXPO」として初めて同時開催しました。まん延防止措置適用下という難しい環境でしたが、感染症防止対策やオンラインの活用に取り組み、リアル展示会を心待ちにしていた皆様からは多数の温かい御言葉をいただき、地域産業における展示会再開への期待や重要性を再確認いたしました。

今年7月も「ものづくり」「環境産業」「中小企業」という北九州ならではの地域ポテンシャル、そして堅実なビジネスマッチング支援サービスを行う他地域にはない開催特色を強みに「課題解決EXPO」を開催いたします。引き続きウィズコロナの展示会として、安全・安心、かつ地域のビジネスの起点となる実効性を備えた展示会を目指して参ります。

また、今回の開催にあたっては、地域企業のDX推進およびデジタル技術の活用が大きなテーマとなります。長年の経験と知識を活かしたビジネスマッチングでご支援いただく北九州テクノサポートの皆様には、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、北九州テクノサポート様の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年



限りある資源を未来に 地球環境に貢献



株式会社コーセイジャパン

〒800-0315 福岡県京都郡苅田町港町8-11

TEL : 093-436-6136 FAX : 093-436-6141 <http://www.kosei-japan.com>



エコアクション21
0008225

LED照明でCO2低減

省エネ

照度
アップ

長寿命

水銀レス

光触媒で快適環境に

消臭

抗菌

VOC
低減

抗ウイルス



千草ホテル
Chigusa Hotel

北九州市八幡東区西本町1-1-1
TEL093-671-1131
<http://www.chigusa.co.jp>

新春随想



2022年(令和4年) 新春随想 福岡県 商工部 中小企業技術振興課長 吉海 和正

新年明けましておめでとうございます。

貴法人におかれましては、国内有数のものづくり拠点である北九州地域を中心に、技術開発や産学連携など様々な支援を通じて、本県ものづくり産業の振興に御尽力いただいております。

吉田会長をはじめ、会員の皆様の熱心な活動に心から敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会経済が急激かつ大きく変化する中、ものづくり企業においても、デジタル化への取り組みが必要となっています。

県では、ものづくりのデジタル化を支援するための機器整備を進め、昨年10月に工業技術センター機械電子研究所へものづくりの上流となる設計から製造までのデジタル化を支援する「デジタル化実証支援ラボ」を開設したところです。

さらに本年2月には、九州の公設試では初となる金属3Dプリンタが導入されます。通常の3次元造形に加えて、既存部品への付加的な造形も可能な機器であり、金型や治具等の改修や改造にも対応できます。これらの機器を活用し、県内ものづくり中小企業のデジタル化、更にはその先のDXの推進に努めてまいります。

県内中小企業を取り巻く現状は、依然として厳しい状況にあります。ウィズコロナ下の社会に対応した、企業の新たな挑戦が始まっています。

県としては、引き続き、技術の高度化や新技術・新製品開発、人材の育成・確保、知的財産戦略などの支援施策を積極的に推進し、厳しい状況を打開できる多様で活力あるものづくり中小企業の成長発展を図ってまいります。

終わりに、貴法人のさらなる御発展と、会員企業の皆様の御健勝と御活躍を心から祈念いたします。

新春放談 北部九州・山口の新年と語る

■西日本工業大学

学長 片山 憲一

新年あけましておめでとうございます。



2022年はコロナ禍で加速されたニューノーマル(新しい日常)への変化が目に見える形で進む気があります。お店で買い物をするのが当たり前ではなくなり、一堂に会した会議も復活しそうにありません。同時に価値観が経済的な豊かさから快適さや幸福度などに変わり、温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルが必達になります。背景

に増えすぎた人間を支えるフロンティアが地球上に無くなった上に地球温暖化が進行し、成長して富を生み出すという経済モデルが通用しなくなっていることがあります。

そのような中でデータが社会を動かすAI(人工知能)時代を迎えることは確実です。現状はAIを支える深層学習の手順や計算方法がブラックボックス化され「効率」が「公平」より優先されています。その上コンピュータは多くの電力を消費しています。このためDXの取組みも地球や人に優しいか? またカーボンニュートラルになっているか? という視点で捉え直す必要があります。

まずは三方を海に囲まれた北九州地域では洋上風力に続く波力や潮汐など新たな自然エネルギーの取組みが重要です。その上で次世代を担うSHGs(Sustainable Happiness Goals)が分かる人材の育成が必要です。

西日本工業大学ではニューノーマルな時代を生き抜く学生に対し、専門を超えた教養と共に、新時代の読み書き算盤として「国語での表現力」、「課題解決能力」、「データ×AIリテラシー」を身につけることを目標に人材育成に取り組んでいます。新年も北九州テクノサポートさんなどのお力を借りながら実践経験の場をつくり、SDGsに続くSHGsを理解できる技術人材を地域に輩出したいと考えています。

新春放談 (賛助会員様)

■株式会社有蘭製作所

代表取締役 有蘭 央

新年あけましておめでとうございます。



NPO法人北九州テクノサポートの皆様には、平素から会員企業へのサポートをいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年はコロナ禍の収束が見通せない中、7月には1年延期された東京オリンピック、パラリンピックが開催され、出場した選手の活躍に大いに元気づけられました。日本では10月以降、ワクチン接種の普及に伴い感染状況が鎮静化するなど明るい兆しも見えてきましたが、海外では感染流行が再拡大しており、今年も感染予防に努めながら新たな生活スタイルや変化する社会のニーズに対応できる対策を図る必要があると感じています。

弊社は1910年に旧八幡市に義肢装具製作所として創業し、1965年より海外メーカーの代理店として義肢装具材料の輸入を開始しました。事業拡大に伴い2002年に八幡東区東田に本社を移転し、昨年には福岡市周辺地域のユーザーへのサービス強化のため福岡営業所を新築移転しました。

近年では、情報端末を活用して、これまで属人的であった営業ノウハウを水平展開し顧客対応の均一化と専門的サービスの質の向上を図り、生産技術の高度化を実現する先進のデジタル技術や職人の育成に取り組んでいます。システムの導入に際し、研究機関の紹介、各種助成事業の案内など北九州テクノサポート様には厚い支援をいただいております。

今年も国内外の最新技術を福祉の分野に適応し、少子高齢化社会と障害を持つ方に対して「総合福祉メーカーのリーディングカンパニー」として人に優しいものづくりに社員一同努めて参ります。

最後に、北九州テクノサポート様には本年も引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げますとともに会員企業の皆様のご健勝とご発展を祈念いたします。

謹賀新年



「元気で住みやすいまちづくり」

KPEEC

KITAKYUSHU PROSPERITY ENRICHMENT COUNCIL

北九州活性化協議会

SEARCH

北九州最大の展示会で**ビジネスチャンス!!**

西日本製造技術イノベーション

中小企業テクノフェア in 九州

西日本製造 検索

中小企業テクノ 検索

小倉 駅 5分

西日本総合展示場

デッキ広場でラクダくすぐりコンベンション。

公益 北九州観光コンベンション協会

Topics 2 NPO法人北九州テクノサポートの横連携体制構築に向けて

副会長・理事 影山 隆雄

NPO法人は、1998年に制定された特定非営利活動促進法によって認証を受け、「社会的使命の達成」を目的に活動している民間の組織と定義されています。NPO法人北九州テクノサポート(NPO-KTS)の社会的使命は、経験豊かで豊富な知識・技術を備えたシニア世代を社会の貴重な人材・人的資源として捉えその活力をもって、地域住民及び地域の企業、公私の組織・機関に対して、経営、技術開発、IT化、環境保全、新規事業の創出等に関する調査、教育、指導、連携促進及び政策提言活動などまちづくりの根幹に関する事業を行い、北九州及び山口地区の活力あるまちづくりに寄与することです。

そのために、課題毎に機動的な活動が出来るように①技術経営ものづくり支援、②産学官連携人材育成支援、③環境・省エネ支援、④ISO・EA21支援、⑤IT活用支援、⑥販路開拓ビジネス支援、⑦広報・デザイン支援、⑧EA21地域事務局環境未来の八つの専門部門と⑨事務局が窓口になっています。

一方、ニーズの多様化に伴って、行政だけでは社会の課題に対応しきれなくなり、2010年に政府が「新しい公共」という概念を打ち出しました。これは民間の自由で柔軟な発想を活かして社会的課題の解決を図るもので、NPO法人がその担い手の一つとして期待されることになり、NPO-KTSは、次の三つの事業を受託することになりました。

一つ目が中小企業の環境経営を支援するエコアクション21(EA21)地域事務局を⑧の部門が担当、二つ目が理系学生の地元就職率向上を図るため推進する地域連携インターンシップ(IS)事業のコーディネーター役を②の部門、そして三つ目が中小企業テクフェアや西日本製造技術イノベーション展における出展企業シーズと地域の企業ニーズを結び付けるビジネスマッチング(BM)事業のコーディネーター役を⑥の部門が担当しています。

この三つの事業は、それぞれ地域の300社から500社を対象にしていますが、重なる企業様も多いことからIS事業とBM事業では一部のコーディネーターが兼務することにより多様化するニーズに対応する体制を取って来ました。

最近、ますます複雑化する中小企業の課題に対応するため、EA21地域事務局環境未来も含めた三つの事業を含む八つの専門部門の横連携に取り組む体制の構築を目指す必要が生じています。しかし、中小企業の個々の課題は機密性が高いことと、EA21審査員倫理規程の制約から横連携体制の構築は容易ではありませんが、中小企業経営者の皆様とNPO-KTS会員との信頼関係をベースにその解決に取り組めます。

■エコアクション21地域事務局環境未来の活動状況■

責任者 西 哲郎

- (1) エコアクション21導入セミナー並びに集合コンサルティング・実践講座を開催しました。山口県産業廃棄物協会、やまぐちエコ市場、福岡県(飯塚市、北九州市)にて開催、新規認証・登録事業者の拡大を図っています。
- (2) 認証・登録事業者様を対象に、10月13日、「アフターフォローセミナー」をリモートZoomにて開催しました。事業者様の活動支援、相互研鑽の成果を挙げるのが目的です。今回は、「SDGsの取組状況等の講演とマンダラチャートの活用演習」を研修しました。
(内容は、本誌1頁の Topics1.本セミナー講師「今仁豪造様」の記事を参照して下さい。)



- (3) エコアクション21に長年にわたり熱心に取り組んでこられた全事業者に対し、中央事務局から感謝状が贈呈されました。当地域事務局扱い事業者は90社が贈呈対象となりました。
- (4) 北九州市長感謝状授与制度は10年目を迎え、今年度は「(株)ダイコウ技研、(株)緒方組、(株)村上精機工作所」の3社が「環境にやさしい取り組みを行い、成果をあげている事業者」として北九州市長から、感謝状及び記念品が授与されました。
- (5) 認証・登録事業者は全国でおよそ7,500社となり、当地域事務局環境未来では約320社を御世話しています。地球環境保全のためには中小企業の皆様がエコアクション21の活動に参加され、二酸化炭素等の温室効果ガスの削減他に取り組まれることが今後ますます不可欠となってきています。一社でも多くエコアクション21の認証を取得されますようお願いいたします。

謹賀新年



がっちりガードして、耐風力・防犯力・操作性・耐久力が大幅アップ
中柱固定装置ザガードマン 新発売!

当社開発/特許取得製品



安全・安心、シャッター設置・修理



有限会社 やまもと

〒805-0050 北九州市八幡東区春の町3丁目1-9

TEL 093-681-6360 FAX 093-681-6818

フリーダイヤル 0120-117-914(市内)

URL <http://www.s-yamamoto.jp>

私たちカンノ製作所の使命は「製品を通じて世の中のを“つなぐ”こと。

場所と場所をつなぐ。装置と装置をつなぐ。人と人をつなぐ。
装置と人をつなぐ。アナログとデジタルをつなぐ。音をつなぐ。

つなぐ技術を駆使して世の中の安心・安全に貢献すること。

私たちは「つなぐ」技術のリーディングカンパニーを目指して、
通信の革新に挑戦し続けます。

INNOVATION TO CONNECT

“つなぐ”を革新する



株式会社 **カンノ製作所**

<http://kanno.co.jp>

創業90年

【本社】 〒802-0022 北九州市小倉北区上富野 1-5-25
TEL (093)521-9531 FAX (093)511-6470

【営業所】 東京、首都圏、名古屋、仙台、大阪、金沢、米子、広島、九州



ICS 有限会社 ICS SAKABE



プロフェッショナルを目指す若手エンジニアを応援しています!



〒802-0061
福岡県北九州市小倉北区三郎丸1-12-17
TEL : 093-932-7480 FAX : 093-932-7481
Email : info@icssakabe.com
URL : <http://www.icssakabe.com>



【取扱製品】

鉄道用分岐器、継目板、
トンネル用H形支保工、
九鉄式フックボルト、タイプレート、
鉄道車輛部品、レール溶接工事、
各種照明器具



感謝を忘れず気持ちを新たに

九州鉄道機器製造株式会社

〒800-0028 北九州市門司区下二十町2番30号

<http://www.kyutetsu.com>

Topics 3.

中小企業のテレワークITシステム構築支援

IT活用支援グループ長・理事 影山 隆雄

テレワークは、柔軟な働き方で企業と従業員をWin-Winの関係にするもので、通勤の負担軽減、育児や介護で離職する従業員の引き止め、従業員のワークライフバランスの向上がメリットとして挙げられ、生産年齢人口の減少への対策として注目を集めています。その実現には、自宅や外出先でも、オフィスと同じ環境で仕事をするためのITシステム構築が欠かせません。

NPO法人北九州テクノサポートは、コロナ禍のもと在宅勤務を可能にする図に示すテレワークITシステムをMicrosoft 365 BusinessとNTTPC WebARENAによって構築し運用しています。このようなテレワークITシステム導入をお考えの皆様は、NPO法人北九州テクノサポートのホームページのお問い合わせからご連絡願います。

<http://www.npo-kts.org/>
トップページ □お問い合わせ

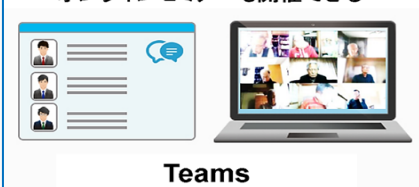
WebARENAとOutlookを通じて会社宛てのメールを自宅でも扱え、社内関係者の予定表を共有できるのでオンライン会議の設定が簡単



OneDriveクラウドを通じて社内だけでなく社外の関係者とも情報共有ができ、メールに添付できない大容量ファイルも共有可能



Teamsで社内だけでなく社外の関係者とオンライン会議ができ、お客様向けのオンラインセミナーも開催できる



OneDriveクラウドを通じて自宅や外出先でも職場と同じ環境で作業が可能



図 テレワークITシステム

KTS情報交換会・勉強会のご案内

会員以外の方も奮ってご参加下さい!! (e-mail info@kitaqts.org TEL093-873-1453)

★KTS情報交換会★

第9回10月8日、第10回11月20日、Zoomで実施し、参加者は両会共、約10名でした。

第9回は2021年の展示会ビジネスマッチングの状況報告、EA21との連携を模索した活動の企画やグループ活動相互の横連携に取り組んでいることを紹介、又、第10回は他の活動団体(J-Score)との協力関係構築の話や参加会員からのKTS活動についての希望や自己紹介・近況紹介など和やかなコミュニケーションの場となりました。

★SDGs勉強会★

北九州市が、2018年6月、全国で初めての「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されたのを受けて勉強会をスタートさせました。当初は、日経文庫の「SDGs入門」がテキストでしたが、2020年から「SDGs経営—社会課題解決が企業を成長させる」日刊工業新聞社編、松木喬著をテキストとして17の事例からSDGsの手法についてオンライン形式の輪講を行っています。

★第4次産業革命勉強会★

この勉強会では、2020年後半から新型コロナにより先行きの不確実性が高まり、中小企業においてもDX(デジタルトランスフォーメーション)による変革力が求められていることから、未来IT図鑑シリーズの「これからのDX」内山悟志著、エムディエヌコーポレーション発行をテキストとしてDXの多面性についてオンライン形式の輪講を行い会員の自己研鑽に努めています。

謹賀新年

安全第一 + 品質優先

株式会社 新大倉

プラントエンジニアリング
1959年設立の経験値と、
新技術への挑戦で
ソリューションします。

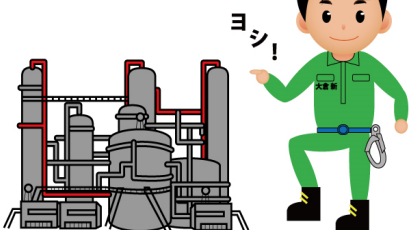
本社
北九州市小倉北区真鶴 2-5-16
TEL: 093-561-1434

東京支社
東京都品川区南大井 3丁目 8-12
TEL: 03-3766-2871

長崎支社
長崎県長崎市上野町 6番 24号
TEL: 095-844-8131

MAIL: project@shinohkura.co.jp

電気計装を中心に配管や機械設備まで、
設計から施工、保全までお任せ下さい。



北九州から全国へ
気象とものづくりで
企業の安全を支える

- 気象の総合コンサルティング
- 気象海象観測・予測情報提供
- 気象観測機器レンタル

気象庁予報業務許可第51号
System & Meteorology **システムメテオ**

〒802-0979 北九州市小倉南区徳力新町2-8-11
TEL: 093-965-1033 FAX: 093-965-1122
<http://www.sysmet.jp/>

国土交通省NETIS登録商品

ガラスレンズ金型 (超硬合金製)



次世代移動通信技術
『5G』に使用されるレ
ンズを製造するには弊
社の『超精密加工技術』
が必要です。1/1000mm 以下

夢のあるものづくり
WORKS
株式会社ワークス

〒811-4321 福岡県遠賀郡遠賀町虫生津 1445-1
TEL: 093-291-1778 FAX: 093-291-2728

Matsushima
Matsushima Measure Tech

「現場の見える化」を実現する

電波式レベル計 タストモニタ エアダストモニタ

株式会社 マツシマ メジャテック

お問合せは
コチラ

〒807-0837
北九州市八幡西区則松東一丁目8番18号
TEL: 093-691-3731 FAX: 093-691-3735

マツシマメジャテック

NPO法人北九州テクノサポートのグループ活動紹介

◆ 技術経営ものづくり支援グループ ◆ (16名)

昨年より新体制で活動を開始した。よろず相談のコーナーを設け、多様な課題に対応すべく取組んでいる。KTS内の横連携強化を掲げ、他の活動グループ(EA21・ビジネスマッチング・インターンシップ)からの個別企業への支援要請も取込みながら様々な課題に取組んでいる。主に企業の技術開発・改善テーマなどへの取組みである。1つはN社の現場で抱える問題についてアドバイザーとして取組んでいる。2件目はK社の製造工程の課題抽出と改善に向けた指導である。現在、5回の会合を実施し進めている。3件目は技術をPRしたいがコネクションがないので、どこに話を進めるか教えて下さいというものであった。こちらは技術士のネットワークを活用して紹介し感謝された。その他、S社から補助金申請についての相談がありアドバイスをを行っている。

以上のように昨年から企業対応の仕事が出来つつあり、新年度は本活動を更に活性化すると共に、他の活動グループとの連携を強化し成果に結びつこう努力したい。

◆ 産学官連携人材育成支援グループ ◆ (25名)

- (1) **地域産業人材育成支援事業**: 北九州地域産業人材育成フォーラムが推進する地域連携インターンシップの受入先企業の開拓と理系大学・高専との調整などに12名の会員がコーディネーターを務めています。今年度は、昨年度に続き新型コロナ感染防止の観点から電話とメールによる企業開拓になったことに加えて、8月20日からの緊急事態宣言で、企業側の中止や学生の辞退などが大きく影響しました。その結果、研修型(短期)では登録企業が55社に留まり、受入決定企業22社、参加学生49名となり、実践型(長期)では、登録企業6社で受入決定企業4社、参加学生6名となりました。
- (2) **SDGs勉強会**: 活動内容は、SDGs勉強会のご案内をご覧ください。

◆ IT活用支援グループ ◆ (10名)

- (1) **テレワークITシステム構築活動**: 活動の概要は、Topics 3. をご覧ください。
- (2) **ホームページ更新**: 新着情報をはじめ賛助会員・協賛会員の広報内容を更新しました。
- (3) **EA21地域事務局環境未来のクラウド利用環境構築**: EA21中央事務局が進めるペーパーレス化に伴って、メールに添付できない大容量ファイルをクラウドで共有化する環境を構築しました。
- (4) **ビジネスマッチング活動のクラウド利用環境構築**: 展示会出展企業のパンフレットなど大容量ファイルの共有化のためクラウド利用環境を構築しました。
- (5) **KITA向け第4次産業革命セミナー資料作成**: (公財)北九州国際技術協力協会(KITA)からの依頼により第4次産業革命セミナーの英文資料を作成しました。

◆ 環境・省エネ支援グループ ◆ (15名)

本年より新体制(グループ長交代)で活動を開始し、以下のテーマを掲げ取組み始めた。①農業分野の活性化(竹粉の地元農家への普及他) ②省エネの補助金活用支援 ③EA21と連携した企業支援の取組

この中で、竹粉の地元農家への普及を進める活動は地元の合馬で竹粉製造装置を設置され、稼働始めたので11月に既に先行して製造している熊本県山都町の棚山都竹流の方々と訪問し、今後の取り組みについて議論した。KTSとしては竹粉の活用先を探すなどの支援を進めていきたい。その他については、あまり具体的な取組が出来なかったが2件の環境に関する技術の相談ごとに対応している。

K社から有機性廃棄物を燃焼せずに熱を加えて改質し有価物を生成する装置である。特許化し、試験装置まで作成され種々取組まれているがエネルギー収支等の技術データがないため、その評価が出来ていない。もうひとつの案件は日本技術士会の技術相談窓口(吉田剛が担当)に寄せられた相談で調査段階のものである。バイオを活用して光エネルギーを吸収した燃料使い発電を行う未来型のアイデアで特許を取られている。革新性が高く、「現在、世の中にある技術で対処可能か」の評価が必要な案件であり、今後、調査を進める予定。

◆ 販路開拓ビジネス支援グループ ◆ (17名)

昨年度まで個別に行われていた中小企業テクノフェアin九州と西日本製造技術イノベーション展が、今年度から6月30日から3日間同時開催されることになりました。このため展示会におけるビジネスマッチング(BM)活動は、5月の連休明けからの短期間だが、新型コロナ感染防止の観点から、出展企業によるシーズのオンライン説明会をはじめ川下企業への出展企業の事前説明も電話とメールやオンライン打合せのかたちを採用して行いました。コーディネーター14名による活動の結果、面談・商談件数 162 件、全訪問企業 242 社で、来場企業 90 社となり、商談件数は 21 件、成約・見積依頼が計 5 件でありその合計金額は 56.5 百万円となりました。

◆ ISO・EA21支援グループ ◆ (27名)

- (1) EA21認証取得事業者の課題・ニーズの引き出し及び課題解決について、主として技術経営ものづくりグループ(Gr.)との協働を進めている。
- (2) EA21認証取得事業者を拡大すべく、地域事務局とのタイアップでセミナー講師等を動員して啓蒙を図っているが、全体としては登録事業者数は減少傾向につき、巻き返し策として有効な取り組みについて検討中である。
- (3) ISO認証維持・新規取得支援の取り組みについては、Gr.員による属人化支援をGr.管理型の取り組みとしてGr.成果に結び付けていきたい。
- (4) Gr.員の相互研鑽として、EA21資格取得勉強会を進めている。又、省エネ診断士、その他の技術取得のため、オンライン定期研修による勉強会を企画中である。
- (5) KTS通信Vol.37 7版として、エコアクション21たより第16号を発行した。

謹 賀 新 年



ステンレス・アルミニウム・チタン

金属研磨で“価値”を与える会社

東洋ステンレス研磨工業株式会社
TOYO STAINLESS POLISH INDUSTRY CO., LTD.

〒818-0131 福岡県太宰府市水城6丁目31-1
TEL: 092-928-3733(代) FAX: 092-928-5430(代)
e-mail: info@toyo-kenma.co.jp
HP: https://www.toyo-kenma.co.jp/

トンネル点検専用車両

MIMM

特徴 1
安全・迅速

特徴 2
3D 同時計測

特徴 3
高精度

特徴 4
直感的!!

30倍ズームカメラ
赤外線熱画像撮影
(サーモカメラ)

計測検査株式会社

北九州市八幡西区陣原 1-8-3
TEL: 093-642-8231

環境づくりに心をこめて

株式会社 守恒造園建設

◆ 地域密着の循環システムの推進 ◆ 社会貢献

事業品目

造園工事・環境事業・きのこファーム

(本社) 北九州市小倉南区志井鷹羽台4番3号
TEL 093-962-4211 FAX 093-962-4272 URL http://www.morizou.info/

ベストプランを
ご提案します!

三栄機工株式会社
福岡県知事許可(般-21)第99106

http://www.sanei-kikou.com/

選別機械 / コンテナ製作
搬送設備 / リサイクル設備
コンベアカバー

設計・施工・修理・メンテ

一般小荷物搬送設備

福岡県京都郡苅田町若久町3-22-5 TEL 093-434-2737

株式会社新大倉

令和3年11月、影山理事が同社代表取締役社長中崎信一様及び企画開発室小野田文士様を通して取材を行いました。

■会社の沿革と業況

当社は、昭和23年に戦後復興を担うプラント計装の会社として北九州市に創業しました。創業者の故郷島は、松下電器の福岡支店長でありましたが、戦後復興を担うのはプラントや発電所といった社会インフラであるとの信念の元、北九州で独立創業し、すぐさま東京に本社を移転しました。東京本社では原子力発電所の建設事業、九州支社では、炭鉱の跡地としての担い手であるセメントプラントの電気計装工事を手がけました。平成元年には原子力発電所の建設ラッシュも終焉を迎えた際に、創業の地である北九州に本社を戻しました。平成に入り、製薬工場内でのプラントエンジニアリングも手掛けるようになりました。現在では、創業当初から関わっている原子力発電所、セメントプラントの電気計装の保全事業を中心に業務を行っています。IoTやAIの影響もあり、近年は、AIのセンサーとなるプロセスカメラの設置工事を中心とする通信工事も手掛けています。

■今後の展開

既存の拡張としては、平成以降に進出した製薬工場内でのプラントエンジニアリングの技術をさらに他分野にも展開できればと存じます。とりわけ、機械配管分野の設計施工、計器の試験調整となります。当社では、試験調整用の計測器は自社保有しており迅速な対応が可能です。新規参入としては、半導体不足でさらなる需要の高まりを見せるファクトリーの根幹を担うロボットの安全柵装置も設計製作を行っております。また、カーボンフリーを担う水素といったエネルギーには、電解装置が必要とされ、当社では強電用の電解装置も設計製作の実績があります。機械から電子電気まで一気通貫したエンジニアリング提供を目指しています。

■KTSへの期待

今回は、大学生向けインターンシップにて、非常にお世話になりました。北九州地域産業人材育成フォーラム主催のインターンシップにて、今後もKTS様のご助力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。また、会員様の人脈、技術をご教示頂き、弊社の成長に幅広いご支援を宜しくお願い申し上げます。

◇ 株式会社新大倉

■所在地: 北九州市小倉北区真鶴2丁目5番6号 TEL: 093-561-1434
■代表者: 代表取締役社長 中崎 信一 ■創立: 昭和23(1948)年4月
■資本金: 4,500万円 ■従業員数: 180名
■事業: 1.プラントエンジニアリング 2.電気計装工事 3.配管機械工事
4.計器調整及び整備 5.機械保全(オーバーホール) 6.技術派遣
URL <http://www.shinokura.co.jp>

有限会社 ICS SAKABE

令和3年12月、ロボットシステムインテグレータ(SI)で急成長中の同社を吉田理事が訪問し、坂部代表取締役に起業の経緯から将来像まで伺いました。

■会社の沿革と業況

物流の企業で電気制御技術者を経験し、それをもっと広く“お客様の困りごとを解決したい”との想いから故郷和歌山で起業しました。起業後は元の会社の下請けからスタートし、北部九州の自動車産業勃興期で事務所を岡垣町に移し2名で始めました。(その後、事務所は現在の小倉北区に移転)2008年のリーマンショックで売上が激減し、初心に返り“1社に依存した事業から独自営業の道を探る活動”を開始しました。新事業は電気制御だけではなく、メカ・電気一体の取組が必要でメカはユニット化されたロボットのような製品を使った事業が望ましい

いいと思っていた時期に、中小でもロボットが普及する時代が到来しました。2015年に大阪のエンジンバルブ製造工場から3K作業の自動化要請を受け、作業のロボット化案を策定し、受注につながり成功しました。これを機に、ロボット事業が始まり、経済産業省『ロボット導入促進のためのシステムインテグレート育成事業』への応募で、全国7社の1社に採用され“ロボット各社の製品を集めて技能者教育・導入サポートをするロボットセンター小倉(RCK)”を小倉北区に開設し、地場企業のロボット活用を先導しています。

また、高度外国人材の採用も開始し、訪問時にはタイ出身技術者が3Dモデルを利用し分かり易く説明されました。RCKでは産業用ロボットの若手技術者育成事業が進んでいます。

コロナ禍ではUV殺菌ロボットを医療機関向けに導入する事業を開始し、マスコミの注目を集めTV放映も多くなり、2020年8月九州UVDROBOTSセンターを小倉北区に開設し、夢を着々と実現している姿が見えました。(現在、RCK、UVD 2センターは機能集約)

■今後の展開

ロボット事業の成長と共にSIとしての事業が広がっています。高齢化社会を迎え現場作業員の不足や3K作業へのロボット導入が加速する時代背景もあり、地元で小回りの利くSIとして先陣を行く手応えが感じられました。今後も事業拡大を進め、地元の浮揚への貢献を目指されています。

■KTSへの期待

ものづくり企業の浮揚が我社のビジネスに重要であり、地場企業支援の中で、当社に不足しているキャリアを活かした支援の強化をお願いしたいとのことです。

◇ 有限会社 ICS SAKABE

■所在地: 北九州市小倉北区三郎丸1-12-17 TEL: 093-932-7480
■代表者: 代表取締役 坂部 好則 ■創立: 平成16(2004)年10月
■資本金: 300万円 ■従業員数: 25名
■事業: 除菌ロボット、除菌装置、汎用ロボットシステム、OnRobot製品/ロボットハンド、SOLOMON製品/ロボットハンド、Piab製品/ロボットハンド、腰補助スーツ、ロボット・装置関連セミナー・研修
URL <https://www.icsakabe.com>

会員動静 (2022年1月10日現在)

正会員	賛助会員	協賛会員
71名	法人:12、個人:0	6

理事会組織

会 長 吉田 剛
副 会 長 影山 隆雄、古谷 長蔵
事務局 長 徳永 昌哉
理 事 荒巻 忠史、関屋 建三、西 哲郎、林 慶三郎
藤原 利久 正木 秀尚、松本 昭喜、渡邊 朝子
監 事 石川 浩、重藤 将美 (理事・監事50音順)

活動グループ

- ・技術経営ものづくり支援Gr.
- ・産学官連携人材育成支援Gr.
- ・環境・省エネ支援Gr.
- ・ISO・EA21支援Gr.
- ・IT活用支援Gr.
- ・販路開拓ビジネス支援Gr.
- ・広報・デザイン支援Gr.

編集後記



コロナ新患発生も収束方向となり経済活性化の矢先での新型株対応を余儀なくされ、まさに10年戦争さながらの状況ですが、各位のご協力を得てVol.38定期発行に至りました。KTS事業・広報活動はご関係先とのFace to Faceによる協働が基本ですので万全な対策の中、読者各位への冊子のご提供を行っております。もちろんPDF版のメール配信や、KTS-HP掲載でのご利用も従来通り行えます。現時点では年2回(冬号・夏号)の2,000部の冊子定期発行ですが、読者様の積極的なご寄稿の増強を含む誌面見直し等についても皆様のご意見をお伺いしながら一層発展した誌面作りや各位のご参画環境づくりの強化を進め産学官民の皆様方、正会員、賛助・協賛会員各位に喜んで頂ける情報誌のご提供を進めて参ります。(編集者)



検索 北九州テクノサポート

<http://www.npo-kts.org/>

正会員・賛助会員の申し込み受け付け中

ホームページから申込用紙をダウンロードできます。

NPO法人 北九州テクノサポート
広報誌「北九州テクノサポート通信Vol.38」

2022年1月10日 発行

編集・発行: NPO法人北九州テクノサポート(広報・デザイン支援Gr.)

北九州市戸畑区中原新町2-1 北九州テクノセンタービル 806号

TEL/FAX: 093-873-1453 E-mail: info@npo-kts.org